

516

京阪電車なにわ橋駅

駅の中にある
文化創造の場
地下1階コンコース内の
コミュニケーション空間
アートエリアB1(ビーワン)

JUN. 2017. 6.1 - 6.30

サーチプロジェクト vol.6

ニュー“コロニー / アイランド” 3

わたしのかなたへ

プロジェクトメンバー

吉森保

大阪大学 生命機能研究所・
医学系研究科 特別教授

dot architects

建築ユニット

やんツー

アーティスト

アート&サイエンスの企画展

人の体と宇宙の構造は似て非なるものとして捉えられることがあります。例えば、体内を宇宙空間のように旅するSF映画「ミクロの決死圏」や「インナースペース」、家具デザイナーのイームズが制作した宇宙・人間・素粒子を巡る極大から極小世界の映像「Powers of Ten」など、様々な表現があります。他方、もうひとつの宇宙やコロニーともいえる身体や様々な感覚については、最先端研究を通じて解明されつつあります。そこで、「島と粘菌の知」や「惑星地球と災害」をテーマにしたアート&サイエンスの企画展「ニュー“コロニー / アイランド”」の第三弾では、“私たち自身”に着目します。

生命をささえる細胞の自己分解システム「オートファジー」

細胞の営みのひとつである「オートファジー」(自食作用)は、細胞が自己成分を分解し再利用する機能で、私たちの細胞のなかで毎日“壊しては造る”ということを繰り返し、それにより生命が支えられているといえます。また、細胞を構成するタンパク質は、20種類のアミノ酸の階層構造によって、それぞれがキャラクターのように独特の形を成し、異なる役割を担い、不思議な営みがなされています。

細胞的遊戯装置が点在する体内空間へようこそ

会場では、独自の形と役割を持つ体内細胞の構造と運動、眩暈や忘我の恍惚を求めて危険を承知で浮遊感に身を委ねる遊びの欲望などをテーマに、空間を構成しています。アミノ酸とタンパク質の階層構造をメタファーにした遊戯装置と、眩暈や浮遊を誘発するVR玩具による仮設公園。“私たちの行動や存在”が動きのトリガーとなり体内構造のように日々更新される仮想公園。この2つの体内公園にて、自らの身体を動かし、展示空間を変容させることで、“わたしたち”の内にいる、巨大な宇宙と似て非なる、未知なる世界(彼方)について考察を深める機会を創出します。

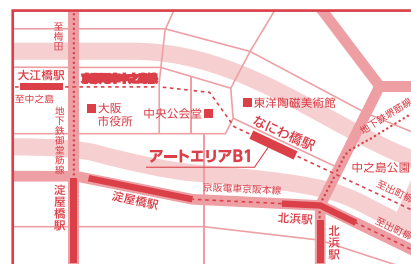
photo by Junpei Iwamoto

開催中 — 6月25日[日] 12:00 - 19:00 月曜休館 / 入場無料

アートエリアB1とは

京阪電車中之島線建設中の2006年から、企業・大学・NPO法人が協同で、都市空間における駅の可能性を模索する「中之島コミュニケーションカフェ」を実施。これを継承して2008年10月19日の中之島線開業を機に、なにわ橋駅の地下1階コンコースに「アートエリアB1」を開設しました。ここでは様々なプログラムを実施し、「文化・芸術・知の創造と交流の場」となることを目指しています。

WEB: <http://artarea-b1.jp>



〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-1 京阪電車なにわ橋駅地下1階

アクセス

京阪電車中之島線「なにわ橋駅」地下1階コンコース（地下鉄「淀屋橋駅」「北浜駅」から徒歩約5分）。「なにわ橋駅」①出入口が最寄りとなります。直連のエレベーターはございませんので、車いすでお越しの場合は、あらかじめアートエリアB1までご連絡いただきますようお願いいたします。